

学校・地域・大学との連携により児童の自然愛護・郷土愛を育む

砂川の淡水魚に親しみ保護する会

活動の目的

郷土を流れる砂川で採集した淡水魚を飼育・観察することを通して、砂川の環境保全を考えることにより、児童に郷土を愛する心情を育てる。

活動の内容及び経過

「豊かな恵み砂川の…」と校歌に歌われている「砂川」には、いろいろな種類の淡水魚が生息しているにもかかわらず、それらの淡水魚に興味がもてない状況も以前には見られた。しかし、5年生の段階で淡水魚の採集や飼育活動を行うことにより、「砂川」の生き物に対する意識の高まりが見られてきている。

2020年度は、コロナ禍で活動に制限がある中で、淡水魚の採集・飼育・環境調査・学習成果発表会を行った。前年度砂川学習に取り組んだ6年生が、5年生に学習成果を発表したり、次年度砂川学習に取り組む4年生を相手に5年生が学習成果を発表したりするなどにより、砂川学習を継続的に引き継ぐ体制も整ってきた。

活動の成果・効果

前年度作成した「落語・砂川ばなし今昔」の鑑賞を通して、砂川学習についてのイメージや学習の見通しを児童にもたせることができた。また、環太平洋大学の協力により作成された「淡水魚観察ノート」をもとに、淡水魚の調査・採集・飼育・観察などの活動などを行うことにより、児童に目的意識を明確にもたせながらスムーズに活動に取り組むことができた。岡山淡水魚研究会やアスエコとの連携により、ゲストティーチャーとして来ていただき、採取した淡水魚の生態や特色について学習に取り組むことができた。採取した生き物の飼育活動を通して、砂川に住む生き物への愛着や砂川の環境への意識に高まりが見られるようになった。

今後の課題と問題点

今後さらに砂川についての意識を高めていくためには、砂川とともに生きてきた地域の方からの聞き取りなどの活動を通して、地域のよさとして認識できるようにする必要があると考えている。学校教育目標「山陽の地を誇りに思い心豊かにたくましい児童を育てる」の中の「山陽の地を誇りに…」の部分に迫るためにも、地域と連携した学習は欠かすことができない。地域の方々の思いや願いに注目して学習を進めていくことが求められていると思う。

学習したことを表現する活動として、学習成果発表会に取り組んでいるが、児童の学びをより身近に感じることが



岡山淡水魚研究会との連携



アスエコとの連携



落語「砂川ばなし今昔」を聞く



淡水魚の飼育活動

できるような成果物の作成（例：砂川淡水魚カレンダー）など児童による表現活動の工夫を探っていく必要があると考える。

- 代表者：坪井秀樹 ●所在地：赤磐市上市
- TEL：086-955-0049 ●E-MAIL：sanyo-sho@city.akaiwa.lg.jp
- URL：http://www.sanyo-es.city.akaiwa.okayama.jp/
- 設立年：2017年 ●メンバー数：62名